

MT利用ガイドライン委員会 の取り組みと今後の予定

AAMT 年次大会 2021

2021年12月9日 オンライン

立教大学 山田優

MT利用ガイドライン委員会メンバー

法人・個人会員

永田哲

ローズ 三浦（エッジ・トランスレーション）

波多野一真

柴田知恵（株式会社知財コーポレーション）

宮本伸也（NBT/NIPTA）

伊藤（鍋田）尚江（株式会社フランシール）

藤田篤（情報通信研究機構）

理事

森口 功造（川村インターナショナル）

永田昌明（日本電信電話株式会社）

中澤敏明（東京大学）

内山将夫（情報通信研究機構）

安達久博（株式会社サン・フレア）

山田優（立教大学）

ガイドラインの目的と対象

- 目的

MTならびにAI技術全般に対する不理解や過度の期待、また翻訳・通訳という営為に対する理解不足に起因する事故や誤解も横行し、社会的問題も頻繁に起きていることに鑑み、健全かつ正しいMT（および翻訳・通訳）の利用を推進する

メイン・メッセージ

- 「精度がすごい!」「TOEIC900点並」といわれてもMTは絶対間違える、いつどこで間違えるかも分からない
- 機械翻訳の出力は品質の担保はされていない
- MTの出力をそのまま使うことはお勧めできない
- 人手による精査・確認が必要である
- 現在のMTはそんなもの
- MTを過信し、また責任を押し付けてはいけない
- 健全かつ正しいMTの利用を促進する

「堺筋」→「サカイ・マッスル」？ 大阪メトロ外国語版サイト「めちゃくちゃ誤訳」多数で閉鎖に

台風19号 「川周辺に避難を」 浜松市、防災メール誤訳し配信 / 静岡

[静岡](#)

毎日新聞 | 2019/10/18 地方版 324文字

女子大浴場

Women's University Bath

男子大浴場

Issues



Source : Association for the betterment of Public English in Japan (日本の英語を考える会)

浦安市多言語表記検証報告書

3-4 検証結果

種類	表記例	正誤
① 公共サイン 検証結果 「浦安市公共サインガイドライン（令和元年5月策定）」に定めのない英訳において、一部不自然なものが見受けられる。	 新浦安駅前	現表記 自転車進入禁止 No Entrance Bicycles 「入口自転車なし」という表現になり、不自然 ↓ 正しい表記 No Bicycles Allowed
② 看板 検証結果 一部、表現が正しくないものが見受けられる。	 交通公園	現表記 授乳室 Suckle room 「Suckle」は直訳で授乳という意味ではあるが、授乳室の表記としてはふさわしくない。 ↓ 正しい表記 Nursing Mother's Room

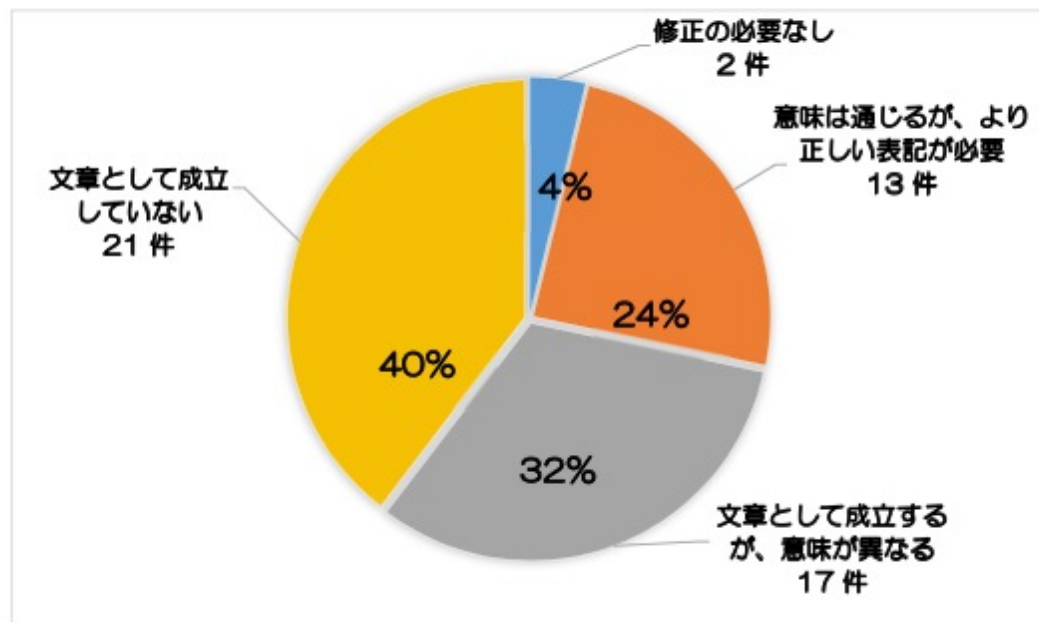
市ホームページ

●精度と誤訳パターン

文章の長さや複雑さに関わらず、句点〔。〕までの1文を1件とし、外国人への情報提供が必要と思われる以下の3つのページの中から53件を選び、1件ずつ精度や誤訳のパターンを分類した。

- ① 急病診療所・急病当番医療機関
- ② AED（自動体外式除細動器）設置場所一覧
- ③ 新型コロナウイルス感染防止のポイント

精度



誤訳のパターン

内 容	件数
複合的な文章のため、意味のないカンマ区切りや、単語の位置などに誤りがある。文法の誤り	28
文脈に適した単語に訳していない	22
主語がない文章に無理やり主語をつけている	14
区切る場所の誤りによる誤訳	6

※対象は53件だが、1文につき複数の誤訳パターンが存在する。

p. 9

- 4-2 市ホームページ
- 市ホームページの多言語化に関する他市との比較と、既存の機械翻訳の検証を行った結果、浦安市の課題は以下のとおりと考える。
 - 1 「名詞登録機能※」等を活用していない。
 - 2 機械翻訳をチェックする体制がない。
 - 3 機械翻訳とは別に、人力翻訳した個別ページを作成する体制がない。

改善案② 既存の機械翻訳の「名詞登録機能」を活用

「浦安市公共サインガイドライン」で定めている多言語表記等については「名詞登録機能」を最大限活用することが必要と考える。

「名詞登録」を推奨するもの

- 「浦安市公共サインガイドライン（令和元年５月策定）」で定めている多言語表記
- 上記以外に浦安市として定めている多言語表記（組織名、施設名、事業名等）
- 「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン（平成２６年３月観光庁策定）」で定めている多言語表記

ＡＩ翻訳サービスについて

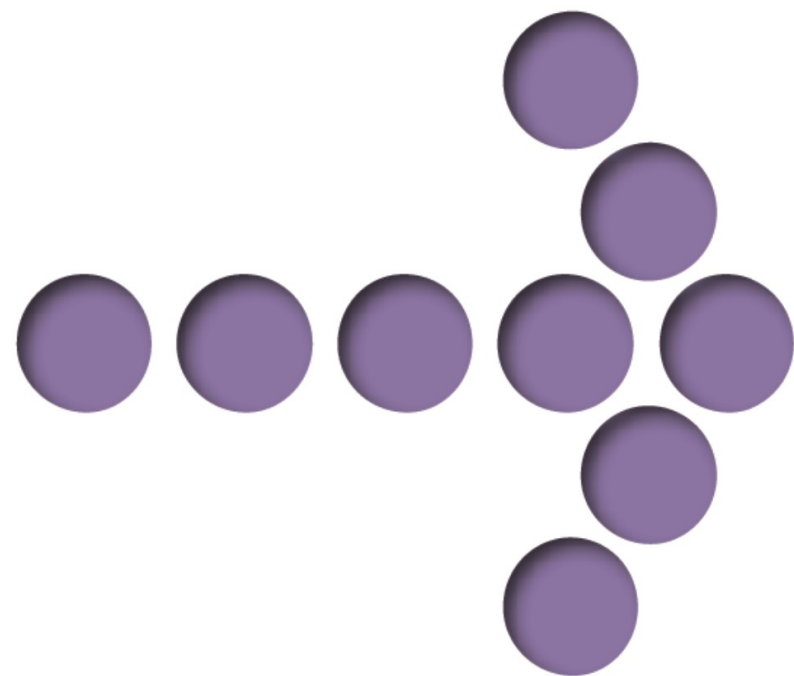
人工知能によりの確な翻訳を学習していくＡＩ翻訳サービスでは、「名詞登録」した翻訳よりもＡＩが学習した翻訳を優先してしまうケースが見られる。

一方で、機械翻訳サービスの中でも、ＡＩ翻訳サービスの翻訳は、精度が高い傾向にある。

このことから、次期リニューアルの際などに合わせ、ＡＩ翻訳サービスを活用した機械翻訳の導入を含めた検討をする必要があると考える。

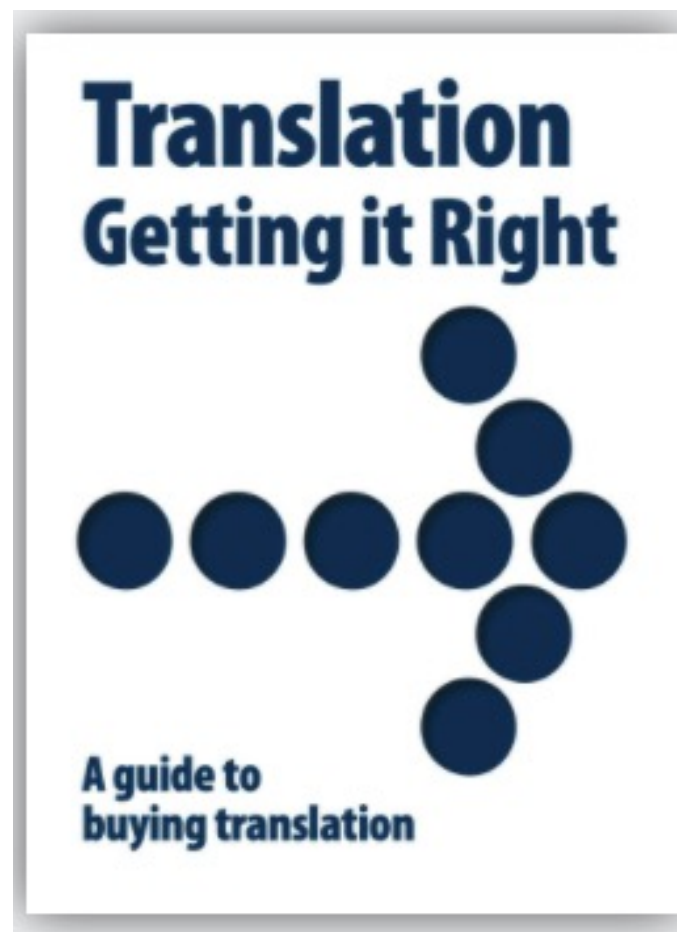
翻訳

で失敗しないために



翻訳発注の手引き

ATA, JTFほか、2011



これ、全部翻訳する必要がありますか？

何百ページもある文書を丸ごと翻訳に出すのはやめましょう。まずはクライアントや営業部門と話し合い、どの情報が実際に必要なのか確認してください。例えば、製品のヒットに貢献した社内全部門の一覧など、多くの外国人にとっては意味がなく、むしろ「井の中の蛙」という印象すら与える恐れもあります。本当に海外の読み手に伝える必要がある情報以外は、思い切ってすっきり刈り込んでしまうだけで、翻訳コストを大幅に削減できます。

アジアへの貿易派遣団に参加したある会社は、プロ翻訳者と相談した結果、写真を掲載した会社案内は製作費が高くなるため原文のまま使い、仕様書だけを翻訳しましたが、商談では大きな成功を収めました。

カリフォルニアのある特許事務所では、定期的に専門翻訳者に日本語の特許文書を口頭で要約する作業を依頼し、全訳すべき文書を共同作業で取捨選択しています。



元の文書から不要な部分を削ぎ落とすか、短縮版の文書を新たに作成して、それを翻訳に出しましょう。翻訳費用の削減だけでなく、情報を絞り込むことがインパクトの向上にもつながります。

機械翻訳は使えるか？

自分で読むため(情報取得用)の資料の大まかな内容を手早く確認したい時には、無料サイトやアプリによる機械翻訳が役に立つこともあります。でも実際に使ってみると、機械翻訳の訳文は意味不明で間違いも多いのが現状です。

一方、クライアントや一般読者が読むため(情報発信用)の文書を機械翻訳で作成することは、クライアントの事前承諾がない限り原則的に許されません。相手に悪印象を与え、大恥をかくのが関の山です。

では機械翻訳の出力をプロの翻訳者に渡して修正してもらうのはどうか？プロの翻訳者がそんな仕事を請負うことはまずありません。最初から自分で翻訳するほうが、時間もストレスもずっと少なくてすむからです。



特許など特定の分野と言語に特化した機械翻訳ソフトウェアも開発されており、大量の外国語文書の内容を大雑把に確認する作業(業界用語では翻訳と区別して「ジスティング」と呼びます)に利用されています。非常に高額の特許ソフトですが、それでも出力結果をそのまま使うには無理があり、専門家による後修正が必要です。

ガイドライン構成

- 翻訳の原理（ある程度権威ある既存の共通基準・枠組みを参照）
- パラメータ（事例・使い方のコツ）
- ガイドライン（サマリ（ガイドラインのガイドライン））

原理（細則との対応）

(a) 品質評価指標

- ① 翻訳品質ガイドライン
- ② ISO品質評価指標 (ISO CD 5060)
- ③ MT+PE品質指標 (LPE or Full PE)

(b) プロセス国際標準

- ① ISO17100/18587
- ② その他のプロセス策定

(c) 専門分野

テキストタイプ

- ① ISO分野区分

(d) 権利と倫理（柿沼）

- ① 著作権
- ② 責任
- ③ 倫理・人権

(e) 人的要素

翻訳コンピテンス

- ① EMT 2017
- ② PACTE

(f) 技術要素

MTの仕組み

- ① NMT、AI
- ② カスタムMT

ユースケース（パラメータ、使い方のコツ）

- ・ 情報の収集（Assimilation）と情報の発信（dissemination）
- ・ 語学力（原文と訳文、方向性、組合せ）
- ・ TPO 誰に発信する、いつ使う、どこで使う
- ・ モーダル（書き言葉、話し言葉、）
- ・ QCD

- ・ MTをそのまま使う
- ・ 言葉を加工して使う（プリ・ポストエディット、制限言語）
- ・ カスタムMT
- ・ ツールとの併用、自動化

MTユーザガイドライン（のガイドライン）

ガイドラインの内容

- ・ **導入と概要**：目的の説明、概要、構成要素（細則）の概観、用語の定義と整理
- a. **品質**：品質ガイドライン
- b. **プロセス**：MTで失敗しないための翻訳プロセス→ISO17100とISO18587を参照した説明
- c. **専門分野**：分野による品質と最適化）
- d. **権利と倫理**：著作権、責任、倫理・人権
- e. **人的要素**：翻訳コンピテンス
- f. **技術要素**：MTの仕組みの話。
- ・ **ユースケース**：具体例

原理（細則との対応）

(a) 品質評価指標

- ① 翻訳品質ガイドライン
- ② ISO品質評価指標 (ISO CD 5060)
- ③ MT+PE品質指標 (LPE or Full PE)

(b) プロセス国際標準

- ① ISO17100/18587
- ② その他のプロセス策定

(c) 専門分野

テキストタイプ

- ① ISO分野区分

(d) 権利と倫理（柿沼）

- ① 著作権
- ② 責任
- ③ 倫理・人権

(e) 人的要素

翻訳コンピテンス

- ① EMT 2017
- ② PACTE

(f) 技術要素

MTの仕組み

- ① NMT、AI
- ② カスタムMT

ユースケース（パラメータ、使い方のコツ）

- ・ 情報の収集（Assimilation）と情報の発信（dissemination）
- ・ 語学力（原文と訳文、方向性、組合せ）
- ・ TPO 誰に発信する、いつ使う、どこで使う
- ・ モーダル（書き言葉、話し言葉、）
- ・ QCD

- ・ MTをそのまま使う
- ・ 言葉を加工して使う（プリ・ポストエディット、制限言語）
- ・ カスタムMT
- ・ ツールとの併用、自動化

MTユーザガイドライン（のガイドライン）

ガイドラインの内容

- ・ 導入と概要：目的の説明、概要、構成要素（細則）の概観、用語の定義と整理
- a. 品質：品質ガイドライン
- b. プロセス：MTで失敗しないための翻訳プロセス→ISO17100とISO18587を参照した説明
- c. 専門分野：分野による品質と最適化）
- d. 権利と倫理：著作権、責任、倫理・人権
- e. 人的要素：翻訳コンピテンス
- f. 技術要素：MTの仕組みの話。
- ・ ユースケース：具体例

a. 品質

JTF品質評価ガイドライン

- A. 正確さ(Accuracy)
 - 原文の情報や意味が訳文に過不足なく盛り込まれているかの程度。対訳での確認が必要と
- B. 流暢さ(Fluency)
 - あるテキストが形式として整っているかの程度。主観的な読みやすさというより、文法など形式面に注目する(well-formedness)。訳文のみならず原文の評価にも使える。
- C. 用語(Terminology)
 - 言葉づかい一般ではなく、ある分野内、企業内、または製品内で用いられる専門用語に関する問題。産業翻訳では、用語を的確かつ一貫して使うことが求められることが多い。
- D. スタイル(Style)
 - 表記のスタイルに関する問題。産業翻訳では、複数人が関与したり既存訳と整合を図ったりすることが多いため、スタイルの統一は重要となる。

カテゴリー一覧	使用する？	重み設定	相対重み
正確さ	☐	普通	▼ 1.00
正確さ - 誤訳	☐		
正確さ - 抜けと余分	☐		
正確さ - 未翻訳	☐		
正確さ - その他	☐		
流暢さ	☐	普通	1.00
流暢さ - 誤入力	☐		
流暢さ - 誤字	☐		
流暢さ - 同音異義語誤り	☐		
流暢さ - 文法誤り	☐		
流暢さ - 誤用	☐		
流暢さ - 待遇表現誤り	☐		
流暢さ - 不統一	☐		
流暢さ - 読解不能	☐		
流暢さ - その他	☐		
用語	☐	普通	1.00
用語 - 指定用語違反	☐		
用語 - 特定分野用語違反	☐		
用語 - 用語不統一	☐		
用語 - その他	☐		
スタイル	☐	普通	1.00
スタイル - 指定スタイル違反	☐		
スタイル - 特定分野スタイル違反	☐		
スタイル - スタイル不統一	☐		
スタイル - その他	☐		

a. 品質

- MTの品質（MTにできること、できないこと）を翻訳品質標準を参照して説明する
- MTの品質（例）
 - 正確性 : △
 - 流暢性 : ○
 - 用語 : X
 - スタイル : △

原理（細則との対応）

(a) 品質評価指標

- ① 翻訳品質ガイドライン
- ② ISO品質評価指標 (ISO CD 5060)
- ③ MT+PE品質指標 (LPE or Full PE)

(b) プロセス国際標準

- ① ISO17100/18587
- ② その他のプロセス策定

(c) 専門分野

テキストタイプ

- ① ISO分野区分

(d) 権利と倫理（柿沼）

- ① 著作権
- ② 責任
- ③ 倫理・人権

(e) 人的要素

- 翻訳コンピテンス
- ① EMT 2017
 - ② PACTE

(f) 技術要素

- MTの仕組み
- ① NMT、AI
 - ② カスタムMT

ユースケース（パラメータ、使い方のコツ）

- ・ 情報の収集（Assimilation）と情報の発信（dissemination）
- ・ 語学力（原文と訳文、方向性、組合せ）
- ・ TPO 誰に発信する、いつ使う、どこで使う
- ・ モーダル（書き言葉、話し言葉、）
- ・ QCD

- ・ MTをそのまま使う
- ・ 言葉を加工して使う（プリ・ポストエディット、制限言語）
- ・ カスタムMT
- ・ ツールとの併用、自動化

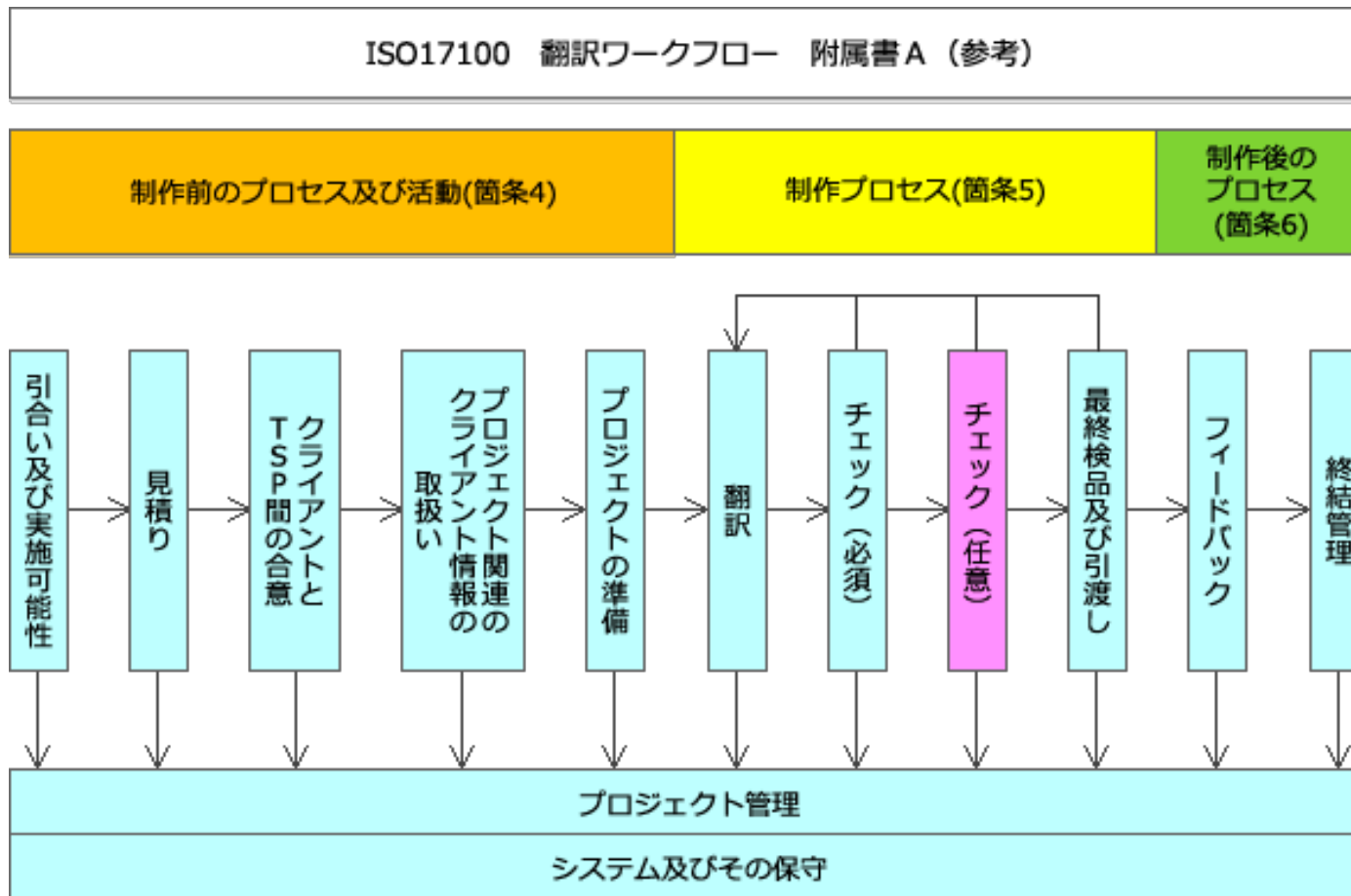
MTユーザガイドライン（のガイドライン）

ガイドラインの内容

- ・ 導入と概要：目的の説明、概要、構成要素（細則）の概観、用語の定義と整理
- a. 品質：品質ガイドライン
- b. プロセス：MTで失敗しないための翻訳プロセス→ISO17100とISO18587を参照した説明
- c. 専門分野：分野による品質と最適化
- d. 権利と倫理：著作権、責任、倫理・人権
- e. 人的要素：翻訳コンピテンス
- f. 技術要素：MTの仕組みの話。
- ・ ユースケース：具体例

b. プロセス

「翻訳」プロセスとは何か？



出典：<https://shinsaweb.jsa.or.jp/MS/Service/ISO17100>

原理（細則との対応）

(a) 品質評価指標

- ① 翻訳品質ガイドライン
- ② ISO品質評価指標 (ISO CD 5060)
- ③ MT+PE品質指標 (LPE or Full PE)

(b) プロセス国際標準

- ① ISO17100/18587
- ② その他のプロセス策定

(c) 専門分野

テキストタイプ

- ① ISO分野区分

(d) 権利と倫理（柿沼）

- ① 著作権
- ② 責任
- ③ 倫理・人権

(e) 人的要素

翻訳コンピテンス

- ① EMT 2017
- ② PACTE

(f) 技術要素

MTの仕組み

- ① NMT、AI
- ② カスタムMT

ユースケース（パラメータ、使い方のコツ）

- ・ 情報の収集（Assimilation）と情報の発信（dissemination）
- ・ 語学力（原文と訳文、方向性、組合せ）
- ・ TPO 誰に発信する、いつ使う、どこで使う
- ・ モーダル（書き言葉、話し言葉、）
- ・ QCD

- ・ MTをそのまま使う
- ・ 言葉を加工して使う（プリ・ポストエディット、制限言語）
- ・ カスタムMT
- ・ ツールとの併用、自動化

MTユーザガイドライン（のガイドライン）

ガイドラインの内容

- ・ 導入と概要：目的の説明、概要、構成要素（細則）の概観、用語の定義と整理
- a. 品質：品質ガイドライン
- b. プロセス：MTで失敗しないための翻訳プロセス→ISO17100とISO18587を参照した説明
- c. 専門分野：分野による品質と最適化）
- d. 権利と倫理：著作権、責任、倫理・人権
- e. 人的要素：翻訳コンピテンス
- f. 技術要素：MTの仕組みの話。
- ・ ユースケース：具体例

c. 専門分野

翻訳分野区分

https://shinsaweb.jsa.or.jp/_Files/MSCoverage/TSP.pdf

大分類	(参考) 小分類	(参考) 文書例
A.金融・経済・法務	金融・財務・証券・保険 不動産・宅建・賃貸 法律・法務・訴訟 経営・経済・ビジネス一般	契約書 目論見書 財務報告書 調査報告書 定款 謄本 ビジネスレター プレスリリース
B.医学・医薬	医療・健康・栄養・美容 医薬品・医薬部外品・化粧品 食品・動物薬 医療機器 薬事行政・医療経済	申請書類 (CTD) 添付文書 カルテ 薬事ガイドライン 論文・文献
C.工業・科学技術	機械・工学 電気・電子・半導体・光学 車両・造船・船舶・航空・宇宙 コンピューター(ソフト・ハード) ゲーム 情報技術・通信・ネットワーク 原子力・エネルギー・環境 建築・土木・物流・プラント 化学・バイオ・材料	取扱説明書 カタログ パンフレット 設計書 図面 提案書 規程類

原理（細則との対応）

(a) 品質評価指標

- ① 翻訳品質ガイドライン
- ② ISO品質評価指標 (ISO CD 5060)
- ③ MT+PE品質指標 (LPE or Full PE)

(b) プロセス国際標準

- ① ISO17100/18587
- ② その他のプロセス策定

(c) 専門分野

テキストタイプ

- ① ISO分野区分

(d) 権利と倫理（柿沼）

- ① 著作権
- ② 責任
- ③ 倫理・人権

(e) 人的要素

- 翻訳コンピテンス
- ① EMT 2017
- ② PACTE

(f) 技術要素

- MTの仕組み
- ① NMT、AI
- ② カスタムMT

ユースケース（パラメータ、使い方のコツ）

- ・ 情報の収集（Assimilation）と情報の発信（dissemination）
- ・ 語学力（原文と訳文、方向性、組合せ）
- ・ TPO 誰に発信する、いつ使う、どこで使う
- ・ モーダル（書き言葉、話し言葉、）
- ・ QCD

- ・ MTをそのまま使う
- ・ 言葉を加工して使う（プリ・ポストエディット、制限言語）
- ・ カスタムMT
- ・ ツールとの併用、自動化

MTユーザガイドライン（のガイドライン）

ガイドラインの内容

- ・ 導入と概要：目的の説明、概要、構成要素（細則）の概観、用語の定義と整理
- a. 品質：品質ガイドライン
- b. プロセス：MTで失敗しないための翻訳プロセス→ISO17100とISO18587を参照した説明
- c. 専門分野：分野による品質と最適化
- d. 権利と倫理：著作権、責任、倫理・人権
- e. 人的要素：翻訳コンピテンス
- f. 技術要素：MTの仕組みの話。
- ・ ユースケース：具体例

d.権利と倫理

- 著作権
- 責任
- 倫理・人権

原理（細則との対応）

(a) 品質評価指標

- ① 翻訳品質ガイドライン
- ② ISO品質評価指標 (ISO CD 5060)
- ③ MT+PE品質指標 (LPE or Full PE)

(b) プロセス国際標準

- ① ISO17100/18587
- ② その他のプロセス策定

(c) 専門分野

テキストタイプ

- ① ISO分野区分

(d) 権利と倫理（柿沼）

- ① 著作権
- ② 責任
- ③ 倫理・人権

(e) 人的要素

翻訳コンピテンス

- ① EMT 2017
- ② PACTE

(f) 技術要素

MTの仕組み

- ① NMT、AI
- ② カスタムMT

ユースケース（パラメータ、使い方のコツ）

- ・ 情報の収集（Assimilation）と情報の発信（dissemination）
- ・ 語学力（原文と訳文、方向性、組合せ）
- ・ TPO 誰に発信する、いつ使う、どこで使う
- ・ モーダル（書き言葉、話し言葉、）
- ・ QCD

- ・ MTをそのまま使う
- ・ 言葉を加工して使う（プリ・ポストエディット、制限言語）
- ・ カスタムMT
- ・ ツールとの併用、自動化

MTユーザガイドライン（のガイドライン）

ガイドラインの内容

- ・ **導入と概要**：目的の説明、概要、構成要素（細則）の概観、用語の定義と整理
- a. **品質**：品質ガイドライン
- b. **プロセス**：MTで失敗しないための翻訳プロセス→ISO17100とISO18587を参照した説明
- c. **専門分野**：分野による品質と最適化
- d. **権利と倫理**：著作権、責任、倫理・人権
- e. **人的要素**：翻訳コンピテンス
- f. **技術要素**：MTの仕組みの話。
- ・ **ユースケース**：具体例

e. 人的要素、人材育成教育

欧州共通翻訳修士（EMT）



- 欧州の大学（院）の翻訳大学院の標準

The main goal of EMT is fully in line with the EU priorities for higher education: improve the quality of translator training in order to enhance the labour market integration of young language professionals.

- 2009年から改定
- L2翻訳のへの対応（リンガフランカとしての英語）
- テクノロジー変化への対応（NMTの台頭）



LANGUAGE AND CULTURE

TRANSLATION

原文理解

- 1 Analyse a source document, identify potential textual and cognitive difficulties and assess the strategies and resources needed for appropriate reformulation in line with communicative needs

原文の要約力

- 2 Summarise, rephrase, restructure, adapt and shorten rapidly and accurately in at least one target language, using written and/or spoken communication

- 3 Evaluate the relevance and reliability of information sources with regard to translation needs

情報収集

専門分野の知識と文体

- 4 Acquire, develop and use thematic and domain-specific knowledge relevant to translation needs (mastering systems of concepts, methods of reasoning, presentation standards, terminology and phraseology, specialised sources etc.)

- 5 Implement the instructions, style guides, or conventions relevant to a particular translation

指示書、「普通」「規範」への準拠

6 Translate general and domain-specific material in one or several fields from one or several source languages into their target language(s), producing a 'fit for purpose' translation

翻訳力

7 Translate different types of material on and for different kinds of media, using appropriate tools and techniques

媒体・メディアの違いの理解

8 Translate and mediate in specific intercultural contexts, for example, those involving public service translation and interpreting, website or video-game localisation, video-description, community management, etc.

異文化理解

9 Draft texts for specific purposes in one or more of their working languages, taking into account specific situations, recipients and constraints

書く力

10 Analyse and justify their translation solutions and choices, using the appropriate metalanguage and applying appropriate theoretical approaches

説明力・メタ言語

11 Check, review and/or revise their own work and that of others according to standard or work-specific quality objectives

校正・修正力

12 Understand and implement quality control strategies, using appropriate tools and techniques

QA、品質管理（ツール）

13 Pre-edit source material for the purpose of potentially improving MT output quality, using appropriate pre-editing techniques

プリエディット + MT

14 Apply post-editing to MT output using the appropriate post-editing levels and techniques according to the quality and productivity objectives, and recognise the importance of data ownership and data security issues

MT+ポストエディット

TECHNOLOGY

- 15 Use the most relevant IT applications, including the full range of office software, and adapt rapidly to new tools and IT resources
- 16 Make effective use of search engines, corpus-based tools, text analysis tools and CAT tools
- 17 Pre-process, process and manage files and other media/sources as part of the translation, e.g. video and multimedia files, handle web technologies
- 18 Master the basics of MT and its impact on the translation process
- 19 Assess the relevance of MT systems in a translation workflow and implement the appropriate MT system where relevant
- 20 Apply other tools in support of language and translation technology, such as workflow management software

ITスキル

コーパス等の言語
分析ツール

文書の前処理

MTの影響度の把握

MTの評価と活用

TMS等の活用

PERSONAL AND INTERPERSONAL

21 Plan and manage time, stress and workload 時間・ストレス管理

22 Comply with deadlines, instructions and specifications 納期・指示書

23 Work in a team, including, where appropriate, in virtual, multicultural and multilingual environments, using current communication technologies チームワーク

24 Use social media responsibly for professional purposes SNSの活用

25 Take account of and adapt the organisational and physical ergonomics of the working environment 作業環境管理

26 Continuously self-evaluate, update and develop competences and skills through personal strategies and collaborative learning 自己点検

SERVICE PROVISION

業界動向の把握

27 Monitor and take account of new societal and language industry demands, new market requirements and emerging job profiles

28 Approach existing clients and find new clients through prospecting and marketing strategies using the appropriate written and oral communication techniques

営業

29 Clarify the requirements, objectives and purposes of the client, recipients of the language service and other stakeholders and offer the appropriate services to meet those requirements

顧客要求の把握

30 Negotiate with the client (to define deadlines, rates/invoicing, working conditions, access to information, contracts, rights, responsibilities, language service specifications, tender specifications etc.)

顧客との交渉

31 Organise, budget and manage translation projects involving single or multiple translators and/or other service providers 予算・プロジェクト管理

32 Understand and implement the standards applicable to the provision of a language service 翻訳サービスに適用可能な基準の理解

33 Apply the quality management and quality assurance procedures required to meet pre-defined quality standards 見積もり能力

34 Comply with professional ethical codes and standards (confidentiality, fair competition etc.) and network with other translators and language providers via social media and professional associations 倫理規定

35 Analyse and critically review language services and policies and suggest improvement strategies プロジェクトの見直し

原理（細則との対応）

(a) 品質評価指標

- ① 翻訳品質ガイドライン
- ② ISO品質評価指標 (ISO CD 5060)
- ③ MT+PE品質指標 (LPE or Full PE)

(b) プロセス国際標準

- ① ISO17100/18587
- ② その他のプロセス策定

(c) 専門分野

テキストタイプ

- ① ISO分野区分

(d) 権利と倫理（柿沼）

- ① 著作権
- ② 責任
- ③ 倫理・人権

(e) 人的要素

翻訳コンピテンス

- ① EMT 2017
- ② PACTE

(f) 技術要素

MTの仕組み

- ① NMT、AI
- ② カスタムMT

パラメータ（ユースケース、使い方のコツ）

- ・ 情報の収集（Assimilation）と情報の発信（dissemination）
- ・ 語学力（原文と訳文、方向性、組合せ）
- ・ TPO 誰に発信する、いつ使う、どこで使う
- ・ モーダル（書き言葉、話し言葉、）
- ・ QCD

- ・ MTをそのまま使う
- ・ 言葉を加工して使う（プリ・ポストエディット、制限言語）
- ・ カスタムMT
- ・ ツールとの併用、自動化

MTユーザガイドライン（のガイドライン）

ガイドラインの内容

- ・ **導入と概要**：目的の説明、概要、構成要素（細則）の概観、用語の定義と整理
- a. **品質**：品質ガイドライン
- b. **プロセス**：MTで失敗しないための翻訳プロセス→ISO17100とISO18587を参照した説明
- c. **専門分野**：分野による品質と最適化
- d. **権利と倫理**：著作権、責任、倫理・人権
- e. **人的要素**：翻訳コンピテンス
- f. **技術要素**：MTの仕組みの話。
- ・ **ユースケース**：具体例

f. 技術要素

f. 技術要素

- MTの仕組み
- ニューラル学習
- カスタムMT（ドメインアダプテーション）
- 関連NLP技術

パラメータ

(ユースケース、使い方のコツ)

原理（細則との対応）

(a) 品質評価指標

- ① 翻訳品質ガイドライン
- ② ISO品質評価指標 (ISO CD 5060)
- ③ MT+PE品質指標 (LPE or Full PE)

(b) プロセス国際標準

- ① ISO17100/18587
- ② その他のプロセス策定

(c) 専門分野

テキストタイプ

- ① ISO分野区分

(d) 権利と倫理（柿沼）

- ① 著作権
- ② 責任
- ③ 倫理・人権

(e) 人的要素

翻訳コンピテンス

- ① EMT 2017
- ② PACTE

(f) 技術要素

MTの仕組み

- ① NMT、AI
- ② カスタムMT

パラメータ（ユースケース、使い方のコツ）

- ・ 情報の収集（Assimilation）と情報の発信（dissemination）
- ・ 語学力（原文と訳文、方向性、組合せ）
- ・ TPO 誰に発信する、いつ使う、どこで使う
- ・ モーダル（書き言葉、話し言葉、）
- ・ QCD

- ・ MTをそのまま使う
- ・ 言葉を加工して使う（プリ・ポストエディット、制限言語）
- ・ カスタムMT
- ・ ツールとの併用、自動化

MTユーザガイドライン（のガイドライン）

ガイドラインの内容

- ・ 導入と概要：目的の説明、概要、構成要素（細則）の概観、用語の定義と整理
- a. 品質：品質ガイドライン
- b. プロセス：MTで失敗しないための翻訳プロセス→ISO17100とISO18587を参照した説明
- c. 専門分野：分野による品質と最適化
- d. 権利と倫理：著作権、責任、倫理・人権
- e. 人的要素：翻訳コンピテンス
- f. 技術要素：MTの仕組みの話。
- ・ ユースケース：具体例

今後の予定

2022年

1月ー2月：ガイドラインの執筆、確認

3月：修正、推敲

3月末：日本語版FIX

4月：英訳

5月：出版準備

6月：リリース